業 改 良 記 念 碑

農

柄 高さ 巻 一八〇センチメートル)

根

柳津町農業構造改善事業竣工

記 念

碑 衆議院議員

伊東正義書

圃場整備と共に耕地の集団化を計り大型機械導入により省力化 うけ県及び町の指導により開田を主とした土地基盤整備の計画 きかった に相当の労力と時間を費し是がため農家経済に及ぼす影響は大 整備がなされず区画の形状は錯雑不規則にて各人の所有は散在 細八地区の耕作は大部分が畑地で一部水田が凹地に点在し改良 し近代的農業経営の基盤を確立して経済の安定と合理化を図る を樹て只見川より揚水して周辺の山林原野を含めて水田化する し道水路は迂回屈曲しおるため生産資材の運搬並用排水の管理 ため次の事業を施行せり 昭和四十年度に農業構造改善事業計画地域の指定を

事 事 業 業 種 主 体 目 圃場整備事業

柳津町八坂野土地改良区

昭和四十三年着工

ξ

事

業

年

度

昭和四十五年竣工

事業量 八五・五九へクタール

四、

事業の概要

総事業費 一五五、四一〇千円

内

整地工 七五・〇九へクタール

道路工 一一・八四一へクタール

水路工 二六・三三七ヘクタール

揚水施工一式 大石建設工業株式会社

訳

両吸込渦巻ポンプ一台 滝谷建設工業株式会社

三九〇キロ送水管一、〇一三メートル 鈴木建設部

Ŧ,

福島県土地改良事業団体連合会

設

計

者

柳津町産業課

会津若松農政事務所 会津若松農地事務所

事業関係及び受益者

柳津町長

一ノ瀬

碧

農業構造改善事業協議会長

産業課長 管 家

均

農業係長 新井田 継 男

細八機械利用組合 経営近代化事業

昭和四十四年

事業内訳

同格納庫一棟

会津菱農KK

動力刈取脱穀機

鶴巻鉄工建設KK

トラクター四六馬力二台

柳津町農協

総事業費 二三、一七三千円

事

長 猪 俣 才 毅

理

増 井 久 輝

理

事

春 猪 日 俣 源 位

"

横 田 文 雄

增 井 彦兵衛

田 四

俣

銀

監

事

朗

部 長

佐 渡 横 猪

藤

長

人

工事指導監督

籾摺機

七台

籾乾燥機

十四台

籾乾燥調整場

二棟

Ħ 源

春

512



難除地蔵尊

水

姫橋 附 近

清

誇れるものを

世の母ら君に捧げ我が子と

霊あらば人の為め

世の為め守れ地蔵尊

昭和十八年八日

東京都渋谷区千駄谷四丁目七〇一

実母 高橋古春 作

昭和十二年八月廿四日 明光善童子

千葉経明 行年十一歳

おぼ抱き観音由来碑



ある

会津高田町袖山馬場篤は武田信玄の家臣馬場美濃守の子孫で

おぼ抱き観音の由縁の家として今猶栄えているが次の様

な伝説がある



代々久左衛門を襲名した 元禄の初期五代目久左衛門常智は特 児を抱いて静かに歩いて来た かかったときポーッと目前が明るみ 管虚空蔵菩薩を念し黙々として通い続け遂に満願の夜がきた 絶することもあったが久左衛門の固い信仰は崩れることなく只 道を往復した を行っていた に信仰厚く柳津名刹円蔵寺福満虚空蔵に発願し毎夜丑の刻参り 山に移り名を久左衛門と改め農耕に精出していた 以来同家は 南会津郡伊南青柳の里河原田盛頼を頼って身を寄せたが其後袖 を柳津に急いでいた 周囲は漆の様な真暗闇とと早坂峠に差し 大野新田を経て大平山を越え早坂峠を登り平地二里山地四里の 武田家滅亡後美濃守の嫡孫馬場因幡は一族郎党を引き連れて 久左衛門は手甲脚絆に草鞋穿き羽織を着ていつもの様に山道 しかも時刻は丑の刻 高田の里を帰り入田沢の里から道は山にかかり 久左衛門はハットして立止った。 散し髪のうら若い女が幼 足元困難な山道は言語に

女はほの白く美しい顔をほころばせて旅の御人丁度よい所で会

はかき消す如く

あたりは又真の闇となった

久左衛門は夢見る心

スーッと其の姿

にも眩しい金の重ね餅を差出し幼児を受けとると

さず守りをしてくれました

お礼はこれを差上げます」と女は夜目

笑が消えて凄艶な妖気が漂っていた せるようなことがあったらそなたの命はありません」女の顔には微 此子を泣かせず守りをしてくれたらお礼を上げましょう はきっと魔性の者に違いないと思った に從いましょう」と畏まって幼児を受けた わからない て下さいと言った ました 私はここで髪を結いたいと思います 女は笑みを含んで「どうじゃいやか私が髪を結うまで 人も通らぬ夜更けの山中を歩いて来た此の女 久左衛門は心を決め「お言葉 逆らえばどんな目にあうか 然し魔性のものとあれ その間この子を抱 若し泣

> 持ち帰り大切に取扱った 女がくれた黄金の重ね餅がしかと握られていた それから同家には良い事のみが続き金銀 久左衛門はこれを

自ら満ちて大分限者となった。

養したと伝えられる

その後

馬場久左衛門は此處にこのおぼ抱き観音を祭り手厚く供

早坂に立たせ給うやおぼ抱きの

祈る心は後の世の為

御堂並びに記念碑寄贈建立

門は幼児を外に向けて抱き羽織の紐をとき弄ばせた処どうしたこと

懸命にひき延したがポツンと短い方が外れて何度やっても合わなか

方が長く一方が短い

かたちんばで幼児はそれを合わせようと

た

女は静かに髪を梳き初めた

(幼児を泣かせれば命はない)

久

左衛門は一心に虚空蔵菩薩を命じ続け一秒が一時間にも感じられた

女はゆっくり髪を結び終わると「ああもう夜が明ける

よく泣か

撰

文

ば顔合わせに抱いては咬みつかれるかも知れないと思った

久左衛

馬場美濃守信房子孫

坂 内

茂

工事協力者 渡 部 長

土地提供者 平 田 良

坂 内

茂 介

石山雅宥 謹書

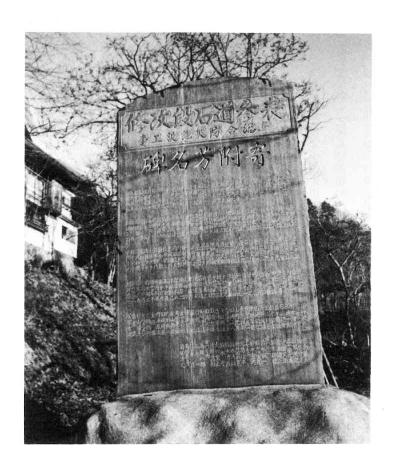
石山建設

謹刻

和三十五年十月吉日

昭

地で暫く虚空蔵菩薩を念じていたがふと気がつくと自分の手には妖



奥之院石階改修記念碑

奥之院

伊勢参宮記念碑

(高さ 二四○センチメートル)光 寺 公 園

瑞

天照皇太神宮伊勢

荒木田伯之謹書

Δ	##	4-			4 817												四
云	託	人	同	同	SCI												和
計	ไ	登	IHU	11-0	戸												昭和十二年三月
東	石	渡	Ŧī.	斎	鈴	佐	渡	田	石	金	内	長	小	Щ	渡	小	至
d:	井正	部	十岁	滕	木	滕	部	崎	并	坎	滕	谷川	Ш	Ш	出	他	≐
次	\equiv	亀	風ヨ	辰	健	新	文	⊐	タ	Ė	フ	美	虎	3	1	勇	月
郎	郎	寿	子	志	=	七	喜	ウ	+	郎	サ	佐	吉	1	チ	吉	伊
												苦					勢
	F	細	宮	岀	同												伊勢参宮記念
			-						22	2002	0.0400	-183	20		4200	10020	記
	渡	芳	五上	斎	鈴	石	渡郊	且	小山	鈴木	渡郊	東	小油	¥5	矢郊	杉木	念
		具	嵐				中			> <		巾					
	文	サ	留	留	辰	彦	3	義	荘	フィ	吉	次	豊	勝	四	薫	
	呂	/	古	古	=	/\	3	兄	底、	ナ	=	四2	/\	伸了	니고	伙	
	同	坎下	同	滝父	同												
	3.		-1-		ÆΔ	11-		-iv	ш	T	H	1+-	萨	n.ve	£24	<i>&</i>	
	水 井	л.	場	+	木	族	黒	并	崎	井	藤	藤	田	田	本	木	
	佐	井		嵐	市	長		佐		Ē				4==			
	血煎	宏.	テル	光	太郎	血郎	省士	郎	康 准	主郎	ヱィ	平吾	ハナ	届 松	幺順	キサ	
		計 東 市次郎 同 渡部 文喜	東市次郎 同渡部文喜 同渡部 亀寿 細越 芳賀 サノ 坂下	東 市次郎 同 渡部 文喜 同五十嵐ヨ子 宮下五十嵐留吉 同	東市次郎 市次郎 東市次郎 田蔵 芳賀 サノ 坂下 五ノ世 田本 東市次郎	東 市次郎 東 市次郎 市次郎 日 市 日 市 日 市 日 市 日 市 日 市 日 市 <	東 市次郎 東 市次郎 市次郎 石川 京 石川 京 五十嵐 京 五十嵐 京 五十嵐 市 石井正三郎 同 渡 市 大場 市 大場 市 大場 市 大場 市 大場 市 大井佐 大井佐 大井佐	東市次郎 一次部半コミ 日 <td< td=""><td>東市次郎 日 渡部 文喜 日 渡部 土 三 日 永井佐 東市次郎 日 渡部 文喜 日 永井佐</td><td>石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 古崎 コウ 日黒 義見 永井佐 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 鈴木 健二 同 鈴木 辰三 同 鈴木市 京藤 辰志 出倉 斎藤 留吉 滝谷 五十扇 五十嵐 子 宮下 五十嵐留吉 同 大場 大場 田崎 一 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐</td><td>東市次郎 一次 東市次郎 一次 本地小三郎 一分 本地小三郎 一分 本地 一月 本地 一月<td>東市次郎 フサ 渡部 吉三 佐藤 大井 マキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 夕キ 小川 荘蔵 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 五十嵐 宮下 五十嵐 一 公本市局 五十嵐 田崎 中ノ 坂下 五ノ井 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐</td><td>東市次郎 佐藤 大井正 大井正 大井正 <td< td=""><td>東市次郎 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 長谷川美佐喜 東市次郎 佐藤 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 鈴木 健二 同 鈴木 辰三 同 鈴木市原部 京藤 辰志 出倉 斎藤 留吉 滝谷 五十扇 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 大場 東市次郎 一 永井佐</td><td>東 市次郎 藤田 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 大井 カキ 大井 大井 石井 タキ 小川 土蔵 田崎 田崎 コウ 日黒 義見 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 鈴木市 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 公井佐藤 石井正三郎 同 改木市 京藤 田崎 大井佐藤 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 一</td><td>東市次郎 大部 四郎 桜本 山中 ミイ 二瓶 勝衛 藤田 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 大川 虎吉 小池 豊八 佐藤 大井 フサ 渡部 吉三 佐藤 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 カキ 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 1 大井 1 大井</td><td>東市次郎 一次平 大部 四郎 一谷 東市次郎 大部 四郎 一谷 長谷川美佐喜 東市次郎 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東市次郎 一次郎 佐藤 大井正 大島 一次郎 一次市次郎 大井正 大井正 一次市 一次市 一次市 一次市 一次市 大井正 一次市 一次市 一次市 一次井正 一次井正</td></td<></td></td></td<>	東市次郎 日 渡部 文喜 日 渡部 土 三 日 永井佐 東市次郎 日 渡部 文喜 日 永井佐	石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 古崎 コウ 日黒 義見 永井佐 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 鈴木 健二 同 鈴木 辰三 同 鈴木市 京藤 辰志 出倉 斎藤 留吉 滝谷 五十扇 五十嵐 子 宮下 五十嵐留吉 同 大場 大場 田崎 一 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐	東市次郎 一次 東市次郎 一次 本地小三郎 一分 本地小三郎 一分 本地 一月 本地 一月 <td>東市次郎 フサ 渡部 吉三 佐藤 大井 マキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 夕キ 小川 荘蔵 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 五十嵐 宮下 五十嵐 一 公本市局 五十嵐 田崎 中ノ 坂下 五ノ井 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐</td> <td>東市次郎 佐藤 大井正 大井正 大井正 <td< td=""><td>東市次郎 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 長谷川美佐喜 東市次郎 佐藤 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 鈴木 健二 同 鈴木 辰三 同 鈴木市原部 京藤 辰志 出倉 斎藤 留吉 滝谷 五十扇 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 大場 東市次郎 一 永井佐</td><td>東 市次郎 藤田 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 大井 カキ 大井 大井 石井 タキ 小川 土蔵 田崎 田崎 コウ 日黒 義見 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 鈴木市 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 公井佐藤 石井正三郎 同 改木市 京藤 田崎 大井佐藤 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 一</td><td>東市次郎 大部 四郎 桜本 山中 ミイ 二瓶 勝衛 藤田 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 大川 虎吉 小池 豊八 佐藤 大井 フサ 渡部 吉三 佐藤 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 カキ 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 1 大井 1 大井</td><td>東市次郎 一次平 大部 四郎 一谷 東市次郎 大部 四郎 一谷 長谷川美佐喜 東市次郎 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東市次郎 一次郎 佐藤 大井正 大島 一次郎 一次市次郎 大井正 大井正 一次市 一次市 一次市 一次市 一次市 大井正 一次市 一次市 一次市 一次井正 一次井正</td></td<></td>	東市次郎 フサ 渡部 吉三 佐藤 大井 マキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 夕キ 小川 荘蔵 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤長 五十嵐 宮下 五十嵐 一 公本市局 五十嵐 田崎 中ノ 坂下 五ノ井 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐 石井正三郎 同 渡部 文喜 同 永井佐	東市次郎 佐藤 大井正 大井正 大井正 <td< td=""><td>東市次郎 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 長谷川美佐喜 東市次郎 佐藤 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 鈴木 健二 同 鈴木 辰三 同 鈴木市原部 京藤 辰志 出倉 斎藤 留吉 滝谷 五十扇 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 大場 東市次郎 一 永井佐</td><td>東 市次郎 藤田 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 大井 カキ 大井 大井 石井 タキ 小川 土蔵 田崎 田崎 コウ 日黒 義見 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 鈴木市 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 公井佐藤 石井正三郎 同 改木市 京藤 田崎 大井佐藤 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 一</td><td>東市次郎 大部 四郎 桜本 山中 ミイ 二瓶 勝衛 藤田 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 大川 虎吉 小池 豊八 佐藤 大井 フサ 渡部 吉三 佐藤 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 カキ 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 1 大井 1 大井</td><td>東市次郎 一次平 大部 四郎 一谷 東市次郎 大部 四郎 一谷 長谷川美佐喜 東市次郎 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東市次郎 一次郎 佐藤 大井正 大島 一次郎 一次市次郎 大井正 大井正 一次市 一次市 一次市 一次市 一次市 大井正 一次市 一次市 一次市 一次井正 一次井正</td></td<>	東市次郎 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 長谷川美佐喜 東市次郎 佐藤 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 石井 タキ 小川 荘蔵 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 鈴木 健二 同 鈴木 辰三 同 鈴木市原部 京藤 辰志 出倉 斎藤 留吉 滝谷 五十扇 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 大場 東市次郎 一 永井佐	東 市次郎 藤田 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東 市次郎 佐藤 大井 カキ 大井 大井 石井 タキ 小川 土蔵 田崎 田崎 コウ 日黒 義見 田崎 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 佐藤 新七 石川 彦八 佐藤 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 鈴木市 五十嵐ヨ子 宮下 五十嵐留吉 同 公井佐藤 石井正三郎 同 改木市 京藤 田崎 大井佐藤 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 同 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正三郎 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 公井 石井正 一 一 一	東市次郎 大部 四郎 桜本 山中 ミイ 二瓶 勝衛 藤田 小川 虎吉 小池 豊八 藤田 大川 虎吉 小池 豊八 佐藤 大井 フサ 渡部 吉三 佐藤 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 フサ 1 大井 大井 カキ 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 大井 1 大井 大井 1 大井 1 大井	東市次郎 一次平 大部 四郎 一谷 東市次郎 大部 四郎 一谷 長谷川美佐喜 東市次郎 市次郎 佐藤 長谷川美佐喜 東市次郎 一次郎 佐藤 大井正 大島 一次郎 一次市次郎 大井正 大井正 一次市 一次市 一次市 一次市 一次市 大井正 一次市 一次市 一次市 一次井正

清

姫

清 姫

橋 河

畔

橋

讃

歌



栄あれと

とこし辺に

湯の香り

梵殿のかね

たもとに祈る

(高さ 九三センチメートル)

清姫が

偕に去りぬ

笠 間 昭和二十八年八月

惠

河畔の岩も

逝く水と

(註) 清姫橋は清姫様御来柳の折り命名された橋である。



(幅 三一センチメートル)

幸田親義

碑

姥沢

銅

Ш

地整理記念碑

耕

(高さ 一五四センチメートル)藤 石 神

下

下藤開田事情

念碑

記

衆議院議員

伊東正義書

本地は元石神と称し文字どうり砂礫土の荒野で一部畑として利用していたほかはほとんどが山林で生育も悪く最も効果の低い地域で先祖も幾度か手を施して来たが水利及び砂礫になやまされ計画も中途で挫折した。昭和四十一年有志の発案により本地の間になる調査を完了し昭和四十二年度工事に着手、四十三年度春にはる調査を完了し昭和四十二年度工事に着手、四十三年度春にはああって水田化に成功した。

西井建設工業株式会社田 工 事 一一・五二ヘクタール 六、五四〇千円

開

委員長 鈴木 文男	下藤土地改良事業共同施行	設計 者 新井田建設事務所 工事監督 新井田継男	総工費一七、一九三千円也	酒井建設工業KK社長 酒井 勉	六、九七三千円	客 土 工 事 九、七八ヘクタール 約二万立方米	小松電気商会	揚 水 機 工 事	大石建設工業	揚水機場工事 一式 二、七四五千円
石工 柳津町 藤田	建設年月日(昭和四十五年十一月)	渡部 一 渡部市太郎 笠間 五郎	斎藤 隆 斎藤 淳 斎藤 誠	斎藤 久衛 長谷川辰雄 斎藤 孝吉	斎藤 勇吉 猪野 一夫 斎藤 数馬	組合員 鈴木公男 斎藤 勇 内川 重雄	監 事 斎藤 義雄 斎藤鬼代美	委 員 鈴木厳 斎藤 政久	庶 務 五ノ井 豊	副委員長 鈴木清夫 会計斎藤平雄



笠

間

常

次

鈴

木

太郎吉

笠

間

善

七

鈴

木

平

吉

鈴

木

IE.

治

斎

藤

久

平

岐 堤 増 築 記 念 碑

分 校 地 (高さ 内 一五九センチメートル)

藤

弐万弐千六百拾五円也

昭和四年八月起工 昭和五年一月竣工

藤耕地整理組合

組

副組合長 合 長 笠 間 友

員 内 斎 Л 藤 丑次郎 久 作 記

委

昭和十九年五月建立

522



(高さ 四()センチメートル)

石川冠者有光墓標



杏

寺 境 内

円 蔵

(高さ 一一五センチメートル) 所

句

碑

昭和四十一年八月十五日建之

主宰 長谷川杜月 佐藤

同人 新井田葫舟

渡部

柳春

歩

新井田忠穂

同人 同人

柳水

鈴木

同人 同人

増井

佐藤

斎藤 遠藤

史堂 秀瑞

内田井竿子

眼下の

ダムの秋

水野 興宗 同人 同人 同人 同人 同人 同人 同人

増井

秋翠

同人 五ノ井杏子

富仙 淡水

同人 同人 同人 同人

林

風子

同人 同人 同人 同人 同人

樋 田

てつ女

平出

巣子 規泉 康永

伊藤

目黒

斎藤

春汀 所生

崎

鶏堂

新城猪之吉(杏児) 柳津町石工 長谷川

坂下町石工

森

善作

524

杏

所

柳津町の記念碑総基



杜

月

句

光寺公

瑞

園

碑

魚渕の魚

崖紅葉

(昭和四十六年秋)

長谷川 杜 月



忠

穂

.

奥之院弁天堂境内

句

碑

干羽鶴

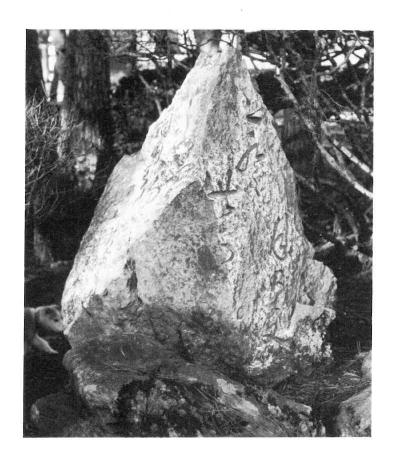
ゆれて御堂の

春明り

(昭和四十七年秋・柳津瓢吟社)

新井田 忠 穂

526



芭 蕉

円 蔵 寺 境

(もと魚渕にあったといわれている) 内

碑

句

川しもや

月の友

文化十二年八月

観山其徳書

此の川上と

月 歩

如

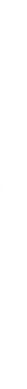
髪

大竹作摩翁之像

竹 作 摩 翁 銅 像

大

み が 丘



選文(台石前面銅版入)

大竹作摩翁は耶麻郡北塩原村の農家に生まれ。 幼にして家業

院議員を歴任した立志的中の偉材である。

ついで政治に志して村議、

県議会議長、

県知事、

通り苦闘の末、 掲げて中央政界、 て公約した只見川筋に十四のダム式発電所を建設する本流案を 昭和二十五年一月自由党公認で、 吉田茂内閣を動かして同二十八年七月只見川早 東北各県に呼びかけて政治運動を展開、 県知事に当選民選知事とし

設合わせて二百万キロワットの水力電気が開発され、 力不足解消と産業経済復興に大きく貢献した。さらに小名浜港 只見川は二千億の巨費と二十年の歳月をかけて新・増 戦後の電

その間戦後のインフレ、開発方式の対立、 財政難、

水利権問題、 田子倉はじめ流域民の補償調停など難問題が山積して

の政治信念は、二百万県民の支持と超党派の支援を結集し、建設陣

しばしば苦境に立ったが、国益増進と地域社会の繁栄を柱とする翁

の意欲を燃やして当時不可能とまでいわれた只見川開発を成功に導

電力再編成と

いたのであり、その功績は氷遠に不滅の光を放つものである。

茲に各界有志相諮り翁の銅像を建て、この偉業を顕彰するもので

ある。

昭和四十九年四月二十九日

大竹作摩翁銅像建設委員会会長

福島県知事 木 村 守 江

教 山 松尾 庵主

会陽士松尾権五郎墓

教 山 松 尾 庵 主 0 墓

猪

門 人 代 表

長 倉 目 黒 重

介

猪 鼻 佐々木 佐々木 佐々木 熊 留 平 郎 Ξ 吉 角

真 佐 一个木 田 熊 倉 蔵

角 田 新太郎

田

信

吉

佐々木

久次郎

真 田 熊 次

岩

佐

忠

郎

信 次郎

小柳津

佐々木

伊

佐美

長

倉

目

黒

重

郎

郷

戸

田

崎

真

田

清

喜

角

田

伊

吉

斎 藤

長次郎 塩 原

寅太郎

賀 儀 八

小

シ川

増

井

孫三郎

黒

滝

_

瓶

徳次郎

芳

賀

兼

吉

芳

大

野

白

井

俊

夫

530



人

形

塚

円 蔵 寺 境

内

人

形

塚

大正拾壱年八月弐拾日

石工

東山村 坂下町 木 田 村 中

倉四郎 忠 蔵



僕半助之墓

月 光

寺

墓地

忠

忠僕半助之墓

真徳院誠光妙蓮清大姉

明治四十年二月十三日

妻リサ 享年六十九歳

10 M

山名定吉享年七十九歳

真輝院功徳道恵清居士

林 権助建之



柳津うぐひ棲息

地

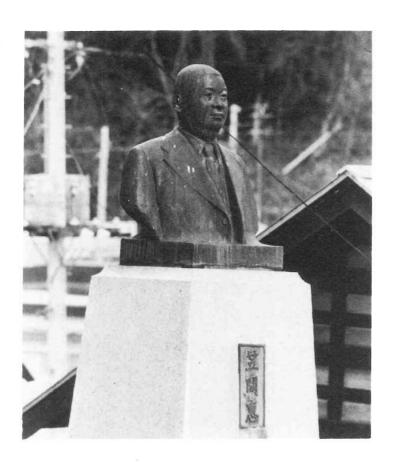
柳津魚渕

天然記念物柳津うぐひ棲息地

天然記念物トシ昭和十五年七月十二日史蹟名勝天然記念物保存法ニ依リ

文部大臣指定

昭和二十五年十一月三日建設



笠間恵翁の像

柳

津町

役場

陸軍曹長動大級猪俣一之墓

坂野

八

六月鉄嶺独立守備隊ニ入隊中満洲事変ニ参加シ勲八等ニ叙セラ忠烈院殿義誉芳勲殉清居士猪俣一資性温順ニシテ潤達昭和八年

後消防手ヲ勤メ又軍人分会班長青年学校指導員ヲ拜命シ信望

内外ニ厚ク成績大ニ見ルベキモノアリ支那事変勃発スルヤ勇躍

ヲ轟シ郷党皆其ノ勇武ヲ称シ偉功ヲ讃ヘタリシニ昭和十五年六召ニ応ジ中支ノ戦線ニ馳駆シ忠魂義膽縦横奮戦会津武人ノ僥名

ヲ受ケ 天皇陛下萬歳ノ一語ヲ残シ壮烈ナル名誉ノ戦死ヲ遂ゲ月八日湖北省常陽県富里寺場附近ノ激戦ニ於テ右胸部貫通銃創

恩辱クモ勲七等ヲ叙シ功六級金鵄勲章ヲ下賜フ

タリ享年廿九、

同年十一月十四日村葬執行挙村英霊ヲ敬弔ス皇

天川

豊.

昭和十七年六月 母トク建之

石工 田中忠蔵

西 山 砂 子原学校前 村 (高さ 三〇〇センチメートル) 之 碑

西 Ш 村 之 碑

二位勲 等松平恒雄閣下篆額

降ノコトニ属ス文治五年山ノ内季基佐原義連ト共ニ会津金山谷 革ハ香トシテ詳ナラス稍々其ノ一部ヲ知リ得ルハ鎌倉時代以 県二際シ若松県ノ治下ニ入リ區會所制度ヲ布カレ従来ノ組ヲ區 組頭郷頭之ヲ統へ大ナル変遷ナク明治初年ニ及フ維新後廃藩置 高田組ニ属セシモノハ軽井沢村ノ一箇村ニシテ各村ニ名主アリ 代村中村牧沢村鳥屋村九々明村遅越渡村沢中村高森村ノ十箇村 村琵琶首村ノ八箇村瀧谷組ニ属セシモノハ湯八木沢村大嶺村田 シモノハ五畳敷村砂子原村黒沢村冑中村芋小屋村大成沢村漆峠 村ハ金山郷ニ属シ瀧谷組大谷組高田組ニ分ル即チ大谷組ニ属 ナクシテ再ヒ幕領トナレリ当時地方ニハ荘郷組等ノ組織アリ本 屋ヲ置キテ之ヲ支配セリ宝暦年間一度会津領トナリシモ幾許 蒲生上杉ノ会津領主時代ニ山内治部少輔大沼河沼ニ郡ヲ領ス寛 高森村遅越渡村中村田代村等ニ館主アリテ支配シタルコトアリ 及伊北ヲ領ス此ノ時代ニ於テ旧称砂子原村黒沢村漆峠村牧沢村 本村ハ往昔大沼郡金山谷ト総称シタルモノノ如クナルモソノ沿 ハ御蔵入又ハ天領ト称シ幕府ノ直轄スルトコロトナリ田島ニ陣 永二十年保科正之会津ニ封セラルルニ及軽井沢ヲ除キ本村地域 セテ牧沢村ニ遅越渡村九々明村沢中村高森村ヲ併セテ四ツ谷村 改ム明治八年田代村中村ヲ併セテ田代村ニ牧沢村鳥屋村ヲ併

スト云爾

昭和十六年九月十五日

異ナルコトナキニ至レルノミナラス舊來ノ関係ト地勢上ヨリ見ル 年コノ間大正十三年各大字ノ財産ハコノ両村有ニ統一セラレー村ト リ組合規約ヲ定メ組合役場ヲ設ケタリ爾來年ヲ閲スルコト五十有餘 軽井沢ノ四大字ニシテ両村共ニ一村トシテ獨立スルヲ許ササルニヨ 所ニ隷属ス明治十六年砂子原外十一箇村戸長役場ヲ設ク当時ノ戸数 併セテ久保田村ニ大成沢村漆峠村ヲ併セテ大成沢村ニ改メ十二箇村 迎フルニ及ヒ將來ノ福祉増進ノタメ記念事業トシテ合併スルニ村民 之ヲ一村トナスヲ適當トシ両村有志間ニハ屢々合村ノ議起リシト雖 五畳敷湯八木沢ノ八大字東川村トナリタルモノハ四ツ谷牧沢久保田 ス即チ中ノ川村トナリタルモノ砂子原黒沢胄中芋小屋大成沢琵琶首 施ト共ニ中ノ川村東川村ノ二箇村ニ編成シ旧村名ヲ以テ大字名トナ 三百八十九戸人口二千四百五十六人ニ過ギズ明治二十一年町村制実 トナル明治十一年郡區町村編成法発布ト共ニ區會所ヲ廃シ大沼郡役 文ヲ需ム余此ノ擧ニ賛シ西山村ノ前途ヲ祝福シ敢テ沿革ノ概要ヲ叙 福亦想フヘキナリ今其ノ記念碑ヲ建設シ之ヲ永遠ニ傳ヘントシ余ニ ク自然ノ帰趨茲ニ至レルヲ以テ村勢ノ発展期シテ待ツベク村民ノ康 モソノ實現ヲ見ルニ至ラサリシカ時恰モ光輝アル紀元二千六百年ヲ ノ誕生ヲ見ルニ至レリ惟フニ本村ノ成ルヤ其ノ由來スル所既ニ久シ ノ意見全ク一致シ中ノ川村東川村ヲ廃シ昭和十五年四月一日西山村 改ム明治九年若松県ヲ廃シ福島県トナス明治十年田代村大嶺村ヲ

福島県知事正五位勲四等 江邊清夫 撰文

福島県立若松商業高等学校教諭

金子三郎 書

(裏)

金子 金子 田中 二瓶登之八 大竹 佐藤 坂内恒七郎 長谷川仲次 歴代村長 賢二 郡造 茂八 合併當時ノ吏員 伊藤 金子 鹿野 天野 長谷川 菊地 山内 小林重太郎 正雄 新吉 龍次 幸市 佐 緑 馨 同 口 同 同 同 同 組合議員 鈴木 金子 中ノ川村 菊地 二瓶 伊藤俊八郎 小林 飯塚藤寿郎 善次 荘 與一 荘 台併當時ノ議員 同 同 同 同 組合議員 同 倉本 佐藤 佐藤 天野 小島美登理 菊地 木ノ戸和市郎 東川村 鐵雄 寅記 玉吉 信

長谷川善祐

伊藤

榮

菊 小島

鈴木

庄平

兵伍

鈴木久一郎

天野礒太郎

寅一

金三

石工

野沢町 鈴木 又次

537



徳碑

彰

(高さ 二二六センチメートル)砂子原、学校入口

従三位勲二等河原田稼吉閣下篆額徳 碑

彰

夫レ利用厚生ハ世ヲ救フ唯一ノ正道也之ヲ實践シテ過ラザルヲ 經世具眼ノ士ト為ス産業報國ヲ信條トシタル吾カ金子卯吉翁ノ 如キハ真ニ其ノ典型ナリ翁ハ明治元年砂子原ニ生ル資性剛毅果 加キハ真ニ其ノ典型ナリ翁ハ明治元年砂子原ニ生ル資性剛毅果 組合村ノ収入役ニ選バレタルヲ発足点トシテ村會議員組合議員 ニ選バレ就中村長在職二十八年間村民ノ福祉増進ト教育ノ発達 ニアム県會議員トシテハ多年ノ蘊蓄ヲ傾ケテ県政ノ助長ニ参畫 ニアム県會議員トシテハ多年ノ福蓄ヲ傾ケテ県政ノ助長ニ参畫 ニアム県會議員トシテハ多年ノ福本・シテ村会議員組合議員 シ道路農桑畜産等交通産業ニ功績ヲ樹ツ又熊野神社ノ昇格社殿 シ道路農桑畜産等交通産業ニ功績ヲ樹ツ又熊野神社ノ昇格社殿

発揮シ柳津川口只見小出間ノ鐡道敷設ニハ多大ノ資財ト渾身ノ

ノ造営ト祖先ノ菩提所神照寺ノ再興ニハ敬神崇祖ノ日本精神ヲ

昭和十六年八月

衆議院議員

中野寅吉撰文

福島県師範学校

松井正吉

書

鈴 木

與

Ш

内

瓶

荘

倉

本

儀

信

寅

記

ノ資タラシメントス盖シ亦先輩ヲ欽仰スルノ正道矣	リ翁ノ功績ヲ石ニ刻ミ之ヲ永遠ニ傳ヘテ顕彰シ依テ以テ後世ノ訓育	村民ニ産業報國ノ道ヲ説テ已マズ真ニ偉人ト言フベシ於是有志相議	悦服スルモノ偏ニ金子翁ノ賜ナリ翁閑雲野鶴ノ境地ニ在リテ猶諄々	ラレタルコトノ数多キニ達スルヲ今現ニ西山村民ノ和平ノ裏ニ日夜	臣福島県知事大沼郡長全國町村會長其ノ他ヨリ表彰状記念品等ヲ贈	ク公益ノ二字ヲ旗印トシテ血戦セル一大奮闘史ナリ宜ナル哉内務大
伊	小	角	小	星	鈴	鈴
藤	林	田	島	-	木	木
伍.	善	定		五左	重	鐵
	次	太郎	清	衛門	太郎	太郎
佐藤	天野	木ノ戸	天野	小島	飯塚	菊地

和市郎

磯太郎

藤寿郎

荘

美登 理

玉

吉

石工 野沢町 鈴木 文次

殿 改 築 碑

社

高さ 一八七センチメートル)

砂子原、 熊野神社境内

碑

抑熊野神社之社殿改築ハ明治四拾四年四月廿四日砂子原部落大 事ニ着手同年九月廿三日愈竣功ヲ見ルニ至ル総工費金七千百弐 日内務大臣ノ許可ヲ得テ村社ニ列ス而シテ昭和三年五月九日工 村社ニ昇格之為メ金子村長東奔西走シテ漸ク昭和三年七月二十 送リタルカ村長金子卯吉氏大ニ之ヲ憂ヒ率先シテ大正十四年十 火之際延焼ニ罹り鳥有トナル仮リニ雨露ヲ凌クノ社殿ニテ年年 拾九円五拾九銭ヲ要セリ其間万難ヲ排シテ村長自ラ建築委員長 ニ依リ篤志家ノ同情ノ下ニ巨額之寄附金ヲ募リ着々歩ヲ進メ亦 シ不文ヲ顧ス其梗概ヲ叙スト爾云 ヲ始メ村民一同協力一致辛酸ヲ嘗メ盡疩セラレタル賜ト言フ可 トナリ委員金子銀吾金子義弥菊地七太渡部庸一渡部直治金子實 二月社殿新築ヲ図リ総集会ヲ開催シ建築ノ協議決定ニナリタル シ村民ハ之ヲ後世ニ伝ヘントシテ余ニ文ヲ徴ス余モ亦此挙ヲ賛

福島県知事従四位勲三等 昭和十四年七月十五日 片山重吉書 君島清吉撰

金子 捨吉 渡部 庸一

世話人 小林 善次 實

昭和十八年九月

石工 若松市 原田想三郎

540



社 殿 改 築

正三位勲一等法学博士馬場愿治君篆額

田 之

改

芋 小

屋

碑

入 (高さ \Box 二四八センチメートル)

ヒ昭和元年十二月堰ノ組合ヲ設ケ同五年四月起工幾多ノ艱難ヲ

シク常ニ飯米ニ不足シ他ヨリ購入シテ之ヲ補ヒ来リ村民之ヲ憂

大沼郡中ノ川村芋小屋胄中ノ両部落ハ山間ニ僻在シテ田地ニ乏

改 田 之 碑

円也爾来水利ノ便田疇ノ饒不足ノ飯米ヲ充スニ足リ両部落ノ幸 野呂技手ヲ派遣シ設計ニ当ラシム土地所有者ハ面積八町六反九 地二変改セリ又県二向イテ耕地整理ノ計画ヲ申請セリ県ハ農林 タルヤ芋小屋字清水平ヨリ疏水シ岩石六十余間ヲ貫通シ堰ヲ築 経テ昭和十年四月六日竣工セリ該工費参千円ヲ要セリ其ノ事業 縮少ヲ願イ五町八反歩ヲ良田ニ改墾セリ其工費壱万五百八拾壱 畝廿六歩ニ対シ耕地整理組合設立許可ノ申請ヲ為シ更ニ地区ノ イテ芋小屋冑中両部落ノ中間ナル字瀧原ノ土地ニ潅溉ニ充テ田

二文ヲ徴ス余亦其ノ挙ヲ賛シ不文ヲ顧ミズ其梗概ヲ叙スト爾云

福ヲ得タリ今ヤ組合員挙テ碑ヲ建テ其功績ヲ後世ニ貽サントシ余

星五左衛門	事 事務取扱兼会計工	修 工事委員長 二瓶登之八改	之前 村 長金子 卯吉	特殊功労者	(上の段)	(裏)			昭和十一年八月 衆議
庶 務 杉原金四郎	合 杉原 善八	理 会 計 二瓶三次郎	地 副組合長 星五左衛門	組 合 長 長谷川久資	(下の段)		片山重喜書	八田宗吉 撰	衆議院議員正五位勲三等
			省略	寄附芳名	(三段目)				
星	*	松		grat.	之 堰	KK	長	工事委員一	(上の段)
栄吾	杉原 長作	杉原 貞治	杉原善八	杉原金四郎	瓶三次郎	羽賀五市	長谷川甚四郎	瓶金三郎	₹.
			合 組	理整	地耕評議員		工事係	庶務	고)
羽賀 十治	星 栄吾	杉原酉三郎	二瓶 寅七	羽賀十次郎	杉原清三郎	長谷川熊八	杉原 貞治	長谷川善祐	(下の段) (三段目)
									(三段目)

齊野茶山謹言

木 勝 先 生 之 碑

大成沢、

博勝公園内

鈴

鈴木 大沼郡中ノ川村 勝氏は 明治三十六年 後西山村と改称)で農を営む鈴木字三治 河沼郡柳津町大字大成沢 同

頌

辞

年同校を卒業して厳父の期待に応えられたのでした 校に 氏の知遇があって ではとくに佐藤運雄博士の薫陶をうけ 営々と勉学に励んでこられました にしようと考えられたようであります 80 て日本大学に入学 って聞こえた会津中学に学びました ツョ夫妻の長男として生まれましたが 厳父は長姉に婿養子を迎えて家を継がせ 五年からは砂子原の本校に通い 勉学の傍ら瀬戸医院院長に師事し これが今日の氏のすぐれた 小学校は四年まで大成沢分 次いで大正十一年上京し 第五子に当たられたた 氏は その後会頭古田重二良 中学校は質実剛健をも 将来これを医者 少年の頃から 幅広い人格を 日本大学 昭和二

大学から医学博士の学位を授与されました 同十八年には母校 543 氏は昭和六年日本女子歯学専門学校教授に就任

同十七年慶応

形成するに力したことは忘れられません

同四十七年再選

現在もその職にあります

このような類いまれな

日本大学教授となり 同二十七年歯学部長 爾来その職にあること

六期十八年に及び また同三十五年には学長を兼ねました さらに

同四十四年に至っては教学の最高責任者としての総長に選挙され

栄進は だ惜しむらくはこの栄誉を早世されたど両親にお見せできなかった 氏の努力と奮闘とを遺憾なく物語るものでありますが た

ことであります

日本大学は 日本最大の規模を誇る大学ですが とこに学ぶ十万余

の学徒諸君はみな氏を敬慕して 日本精神を基調とする建学の精神

また 氏は 学部長 総長としての激務の傍ら 日本学術会議会員

他校には見られぬ美風を築き上げております

を体し勉学に精励

を三期九年つとめられ さらにまた 文部省大学設置審議会会長

厚生省医道審議会委員その他教学団体関係の要職をも多数兼務され

その重責を見事に果たしておられます

せんが 氏が国内における医学進展に寄与された事蹟は枚挙にいとまありま 学界を通してとくにアジア各国との親善を深め これによ

って人類の福祉増進に寄与した功績ははなはだ顕著でフィリッピン

歯科大学からは名誉歯学博士 韓国中央大学校からは名誉法学博士

の称号を贈られておられます

以上の功績により 氏は昭和四十八年四月二十九日 天皇誕生日の

佳節に 勲 一等瑞宝章を親授されました

氏が教育ならびに医学を通して残された数々の業績は

氏を生んだ

地方民としてこの上ない誇りであります ここに顕彰碑を建立する

にあたり 氏の活躍の一端を記して 後世に伝え もって 郷土教

育振興の資に供したいと熱願する次第であります

昭和四十八年十一月吉日

発起人代表 東京都江東区 鈴木 武

埼玉県和光市 齋野蒼山 謹書

柳津町大成沢 鈴木 強

世話人代表

福島県田村郡

柳沼寅起

施工

他 部落民一同

勝 公 袁 顕 彰 碑

博

大成沢、博勝公園

記

文

顕彰碑·博勝公園記念

博士の偉業を讃仰して顕彰碑の建立を発起し多額の浄財を喜捨 に当たり博士の薫陶を受けられた大成沢部落出身鈴木 我が郷土の偉人鈴木 勝博士が 勲一等瑞宝章を親授される 武氏が

されたのであります

あります。 ることを決議し 部落民は 氏と相図り労力の無償奉仕によって事業を遂行す 博勝公園を建設して眺望の地に建碑したので

の発露であり記念すべきものであります 本事業の完遂は 氏と部落民が博士を敬慕すると共に愛郷心

発起人代表 東京都江東区 鈴木

武

世話人代表

柳津町大成沢

強

部落民一同 鈴木

甲三二戸

他

七戸

山市 宗像正

郡

施

工

福島県田村郡

柳沼寅起

浮金物産 (株)

仝 仝

仝

昭和四十八年十一月吉日 山内諦教書

545

(裏)

場整備記念碑

圃

大成沢、博勝公園



搬出入が全く不可能な状態であった

利用するの外なく

農機具の活用や生産資材並に農作物の

、 , , : 大成沢部落は元大沼郡中ノ川村大成沢と称し 東川村と組合

村であった

河沼郡柳津町と合併し柳津町大字大成沢と称する昭和十五年東川村と合併して西山村となり(更に昭和三十年

柳津町役場所在地の南方約二〇キロメートルの地点に位置す

る

総面積約一八○ヘクタールの内耕地は二一ヘクタールに過ぎ。

道水路は迂回屈曲甚だしく(特に道路は本数少なく水路の溝畔)耕地は極めて錯雑不規則のみならず(各戸の所有地は錯綜しす)滝谷川の溪谷に沿う集落山村である)

であるである。この障害を除去し、土地の集団化と共に、農業構造の改善である。この障害を除去し、土地の集団化と共に、農業構造の改善である。

計画を変更し(その処理に弐百数拾万円を要した)工事半ばにして予期せざる転石及び岩盤露出あり(止むなく)

待望の事業成り地区民の喜び是に過ぐるなく茲に碑を建立し後世

の記念とするものである

昭和四十八年十一月

裏

事業内容 第一年度 下原地区

_ 総 事 業 費 二、〇七八、〇〇〇円

_

総

事

業

量

|・八六へクタール

_ 受 益 面 積 ・六四ヘクタール

関係農家戸数 I 一六戸

•

事 期 関 自 昭和四十五年七月一日

至 昭和四十五年九月三十日

|11,000,000日

総

事

業

費

事業内容

第二年度

中平、谷滝、大谷滝地区

員副委工 員副委工 長委長事

仝

賢昭

仝

清夫

鈴木

哲一

鈴木

惣逸

員副委評 員委長価

委

員

仝

郎

委

員

仝

義房

• _ 総 事 業 量 九・四五ヘクタール 八・四六ヘクタール

関係農家戸数 二七戸

仝

仝

富男

仝

仝 仝 仝

政

仝

仝

重正

仝

重位

仝

仝

健也

仝

喜智男

受

益

面

積

I

_

事

期 間 自 昭和四十六年七月一日

至 昭和四十六年九月三十日

> 受 益

組合長 合副 長組 脩

仝 光行

日古夫

員副委換 長委長地 員 仝 仝

匡

與

員副委用 員計 長委長水

光秋

仝

衛

正八

山内諦教書

547

郡山市柳橋

宗像助治石材店刻

工事監督者

計 者 新井田設計事務所

設

柳津町町長

酒井建設工業株式会社

工事施工者

者

鈴木

杉藤

菊雄

裕

員 鈴木 仝

亀雄

仝 義弥

会

計

仝

秋雄

仝

仝

廣正

仝

仝

明

庶

務

仝

仝

仝

仝

仝



宮記念碑

大成沢、住吉神社境内

遷

(裏には刻がない)

大成沢住吉神社改築遷宮の記念碑

納奉

遷

宮

記

念

昭和二十七年九月二十一日

建築委員長

鈴木寅一

建之

弥彦神社改築寄附者芳名碑

久保田弥彦神社境内 (高さ 二〇〇センチメートル)

> 社 歴

御

祭 神

創 始

天ノ香久山命

御

天文元年三月

造 営

勧

請

延宝乙卯三年

会津領主保科正之ノ勧請ニョリ造営

文化二年再建

御本殿改築

御本殿改築

明治八年二月

御本殿新築

新築シ御遷宮ヲ行フ

昭和四十一年十一月

旧社地北方二移転

弥彦神社改築役員名

神 社 宮 司

改築委員長·神社総代長 佐 治 虎 雄

星

亀

鶴

佐

藤

清

猪

佐

藤

栄

喜

佐

藤

信

義

佐

藤

幸

衛

佐

藤

藤 源

佐

周

佐

藤

事

務

局

佐

藤

威

櫻

石

I

柳津 桧原

藤田 文芳 茂

棟

梁

阿部

清 孝

木ノ戸

改

築

会

計

佐

藤

次

男

Ш

内

孝

市

木ノ戸

栄

井

関

滝

義

佐

藤

貞

義

副

委員

長

栄

田

村

神

社

総

代

委

員

佐 藤 寅 喜



牧 沢 招 魂 碑 戦

歿

者

招

魂

碑

(高さ 一四五センチメートル)

天

同

石工 若松市 佐藤

昭和二十一年五月 野 辰五郎 喜八郎 和 牧沢青年団建之 忠 俊 茂 男 吉 雄 美 耕 実 五十嵐 鈴 天 野 木 禎 五 義 Œ. 万作 郎 雄 雄



砂子原熊野神社境内

平

和

塔

大字砂子原

大字牧沢 大字黒沢 大字胄中 大字久保田 二瓶 伊藤 伊藤 伊藤 菊地 渡部 長谷川鳥賊蔵 木ノ戸義光 天野 天野 天野辰五郎 長谷川恒喜 佐藤恒比古 五十嵐武雄 頼母 秋義 龍市 教彰 俊美 清志 民 実 二瓶 二瓶 岡田 菊地 渡部 伊藤 伊藤三十郎 金子 鈴木 天野 天野 菊地為三郎 天野 長谷川周吉 天野喜八郎 三井 照男 忠雄 栄喜 照夫 幸男 信一 禎二 力 伊藤 二瓶 伊藤 田中 菊地 小林 金子 山内 天野 天野 五十嵐万造 長谷川仲弥 正夫 茂男 義雄 英夫 静雄 義雄 司 傳 伊藤 伊藤 菊地 伊藤 金子 佐藤 五十嵐正雄 天野 良介 本次 長重 五郎 和吉 雄 剛 勝

菊地	猪俣	大字五畳敷	荒明	栗城	大字久保	鈴木	鈴木	鈴木	大字琵琶首	鈴木吉太郎	鈴木	鈴木	鈴木	大字大成沢	杉原	杉原	大字芋小屋
惣吉	廣	敷	禎一	四郎	大字久保田字大峯	鼎	勉	勝次	旨	太郎	盛	正敏	男	沪	富雄	忠雄	屋
菊地	大竹		荒明	荒明	筝	鈴 木	土橋	鈴木		鈴木	鈴木	鈴木	鈴木			杉原	
一意	四朗		唯雄	良己		稔	栄	七郎		三郎	新一	清義	兵衛			春男	
猪俣	大竹			荒明		鈴木	鈴木	鈴木		鈴木	鈴木	鈴木	鈴木			杉原	
鉄次	彰			勢一		度県	古	保次		庄孝	行雄	哲夫	明 夫			清喜	
	菊地			荒明		鈴木	鈴木	鈴木			鈴木	鈴木平八郎	鈴木			杉原	
	信夫			光作		長二	春男	隆二			成作	八郎	行雄			孝喜	
												8 1-5					es E ire
	伊藤	大字黒沢	天野	大字牧沢	菊地	大字五畳敷	菊地	五十嵐重郎	大字四以	小島	小島	大字四ツ谷	飯塚	小島	小島	角田	大字湯八木沢
	静一	00	甫	V	兵吉	敷	常八	重郎	大字四ッ谷高森	金伍	半治	谷	秀夫	庄馬	武美	衛	木沢
昭							菊地	菊地		小島	小島			角田	鈴木喜久衛	長谷川俊夫	
昭和廿七年八月建設							求	操		金助	清政			正次	有	俊夫	
十八月建							小島	五十嵐		菊地	小島			飯塚	鈴木	飯塚	
設							竹次	力		熊亀	郎			五一	鉄三	六郎	
彫刻								菊地			菊地			飯塚	鈴木	飯塚	
佐野文夫								国定			鉄美			長一	重雄	藤雄	



西 山 分 校 之 碑

昭和二十四年五月一日福島県立会津農林高等学校西山分校トシ 昭和二十九年十一月五日

テ開校

仮校舎ヲ西山中学校ニ置ク

西山村大字砂子原字長坂八七〇ノ一番地ニ独立校舎建設

昭和三十一年十月九日火災ノタメ校舎焼失 昭和三十三年五月

昭和五十二年三月閉校 卒業生総数三百九拾八名

創立以来二十八年ノ歴史ヲ記念シココニ建立ス

昭和五十二年三月三十一日

建立者

福島県立会津農林高等学校西山分校

定時制振興会

父母と教師の会

窓

会

同

藤田石材店刻

554

松嚴山慶福寺無緣之碑

慶福寺境内



軽井沢銀山の開発は遠く永禄の昔に遡る以来会津領主は此の振

松嚴山慶福寺無縁之碑

興に努力した結果全国有数なる銀山となり会津藩の財源として

脚光を浴びるに至る

在つうこうであって、こうである。1 刀を乗

従ってここに働く人々も遠く日向美濃をはじめ全国から集まり

骨を埋めるものその数を知らず然かも異境なれば供養するもの

四百年の盛衰の歴史の中に男子は勿論婦女子に至るまで此地に

もなく軽井沢分校の敷地にあった慶福寺の無縁仏として雨風に

耐えて来たが五十嵐通氏は之を憂い志ある人々に呼びかけ散逸

した遺骨を此の地に納め懇に供養し無名の開発者の霊を慰めこ

の碑を建つ

昭和五十一年旧三月二十四日

内田伊佐雄撰文書

五十嵐 通 建之

故 故

陸軍曹

長

K 斎藤智代記 A 斎藤 力雄

招

魂碑

海軍一等航空兵

(高さ 一八○センチメートル)野老沢、斎藤豊宅

功六級金鵄勲章

勲六等単光旭日章 故陸軍曹長 齋藤力雄碑

正三位勲一等 松平保雄篆額

君ハ大正六年二月廿二日齋藤家ニ生レ常ニ身体壮健ニテ柳津尋常小学校卒業後常ニ軍人ヲ希望シ年限來ルヤ陸軍山砲兵ニ志願常小学校卒業後常ニ軍人ヲ希望シ年限來ルヤ陸軍山砲兵ニ志願ドナリ千葉砲術学校ニ來リ勤務中昭和十三年七月十三日朝鮮張トナリ千葉砲術学校ニ來リ勤務中昭和十三年七月十三日朝鮮張を終ルヤ支那事変ニ赴キ是レヨリ中支ノ戦闘ニ赴キ中北支那ニ変終ルヤ再ビ南京捕江ニ至リ是レヨリビルマ戦闘ニ赴キ中北支那ニリ海上四十日ヲ経テビルマ国境ヲ越ヘルヤ戦場トナリ奮戦ニ奮ヨリ行軍十七日経テビルマ国境ヲ越ヘルヤ戦場トナリ奮戦ニ奮リカレシモ今度ノ戦ハ小高キ所ニ陣取リ英印軍ト火花ヲ散ラシヘラレシモ今度ノ戦ハ小高キ所ニ陣取リ英印軍ト火花ヲ散ラシヘラレシモ今度ノ戦ハ小高キ所ニ陣取リ英印軍ト火花ヲ散ラシヘラレシモ今度ノ戦ハ小高キ所ニ陣取リ英印軍ト火花ヲ散ラシ

セリ是レ即チ国家ニ義勇奉公ノ念ヲ捧ゲタルト云フ可シ依ッテ文ヲ ク同月廿九日午前十時絶命ス其後遺骨ハ友軍ノ胸ニ抱レ同年十月中 ンガ為五六年戦ッテモ疵一ツ受ケナイ私トバカリ進ンデ飛出シ同時 一敵弾右肩胸部貫通再ビ立上リ遂ニ仆レ急ギ手当ヲ受ケタルモ効無 一先ツ宇都宮師団ニ入リ軍隊葬ヲ経テ柳津町葬ヲ受ケ自宅ニ到着

テ戦へ居ル内本隊ト連絡絶タレ其ノ連絡ニ当リ数多ノ小隊長ヲ助ケ

徴ス余其ノ梗概ヲ叙スト爾云

昭和十九年五月建之

候爵 徳川義知撰文

片山桃仙

故勲八等海軍一等航空兵

斎藤智代記碑

正三位勲一等法学博士馬場愿治君篆額

君ハ大正八年十二月一日河沼郡柳津村大字飯谷斎藤家ニ生レ常ニ盡

忠報国ノ念息マス昭和十二年六月一日海軍ニ志願シテ横須賀海兵団 二入ル同日海軍四等水兵ヲ命ゼラレ十二月五日海軍三等水兵ヲ拜命

シ十三年一月十一日海軍二等水兵ヲ命ゼラレ同日蒼龍乘組ヲ命ゼラ

同十四日高雄着五月六日中南支方面外国鎮我トシテ六月一日横須賀 レ四月二十九日第二艦隊ニ編入セラレ同十三年四月九日寺島水道発

浦航空隊ニ命ゼラレ昭和十四年一月十四日第四十四期操縦練習生教

ニ帰国直ニ航空兵ニ志願シ第四十四期操縦練習生ニ採用セラレ霞ケ

程ヲ卒業シ同日九州大村海軍航空隊ヲ命ゼラレ同十四年五月十三日

午前八時北海道日高 ノ国塩谷秀夫ト乘組大村湾上空ョリ爆撃訓練中

一十五分海中ニ突進シテ遭難殉職同日午後五時死体ハ飛行機ト共

二引揚得タリ是レ全ク義勇公ニ奉ジタルト言フ可シ其ノ抜群ノ功績

著シク昭和十四年五月十三日勲八等ニ叙シ白色銅葉章ヲ授ケラル

畏クモ両陛下ヨリ祭粢料トシテ一封ヲ賜ハル之ガ功績ヲ後世ニ伝

ント余二文ヲ徴ス余モ亦此挙ヲ賛シテ不文ヲ顧ス梗概ヲ叙スト爾云

昭和十四年十一月建之

福島県知事從四位勲三等 君島清吉撰

片山桃仙書

ノ瀬長四郎信利の碑

麻生部落

通称長四郎信利父河沼郡飯谷村麻生一ノ瀬惣吉母大沼郡西川村

大登馬場幸蔵之長女也明治三十六年十二月一日第二師団編入于

歩兵第二十九聠隊第十二中隊第二小隊為日露戦役渡航満洲自摩

天嶺砟子溝黒英台遼陽転戦于各地於沙河大会戦三城子山激戦猛

進第一線勇戦奮闘克擊退強敵昇進上等兵惜哉敵弾貫通胸部遂名

挙戦死是實 明治三十七年十月十一日也 銘日

男子出世

為国家殉

軍人本分

赫々輝史

馬場庄作謹書